

Daily Macro Economic Insights

国際収支統計(2023年10月): 知的財産の大幅な拡大がサービス収支を押し上げ



PwC Intelligence シニアエコノミスト 伊藤 篤
チーフエコノミスト、執行役員 片岡 剛士

経常収支: サービス収支がプラスに転換

財務省から、2023年10月の国際収支統計が公表された(図表1)。10月の経常収支(季節調整済値、以下同)は、+2兆6,217億円となった。前月(9月)から6,108億円のプラス幅拡大となった。プラス幅拡大は2か月連続。経常収支の内訳をみると、貿易収支が-2,915億円と前月より1,609億円マイナス幅が拡大した。輸出が8兆9,214億円となり、前月より2,156億円増加した。輸入が9兆2,130億円となり、前月より3,765億円増加した。増加は5か月連続。サービス収支は、+6,190億円となり、前月より1兆144億円とプラス幅が大幅に拡大した。これらの結果、貿易・サービス収支は3,274億円となり、前月の-5,261億円よりプラスに転換した。また、第一次所得収支は+2兆6,140億円となり、前月より3,057億円のプラス幅縮小となった。10月の経常収支は、貿易収支、第一次所得収支でプラス幅が縮小したが、サービス収支がプラス拡大方向に寄与した。

経常収支のプラス幅は、2022年後半の+6,000億円程度から、2023年度は平均+2.0兆円まで3倍以上に拡大した。輸入金額が10月まで5か月連続で増加しており、エネルギー価格下落による輸入減少、それを受けた貿易収支のマイナス幅縮小は一服した。今後の経常収支は、国内経済の動向、利上げにより減速が懸念される欧米経済、不動産市場悪化の影響が懸念される中国経済、世界経済の動向やリスクの高まりを受けたエネルギー価格動向によって左右されよう。

図表1: 経常収支(名目・季節調整済み値)の内訳

(単位: 億円)

		経常収支							
		貿易・サービス収支	貿易収支			サービス収支	第一次所得収支	第二次所得収支	
			輸出	輸入					
2022年	7-9月期	2,513	▲ 25,157	▲ 18,577	85,050	103,627	▲ 6,580	29,434	▲ 1,764
	10-12月期	7,275	▲ 20,737	▲ 17,205	85,528	102,733	▲ 3,532	30,434	▲ 2,422
2023年	1-3月期	8,052	▲ 16,742	▲ 12,416	79,540	91,957	▲ 4,325	28,687	▲ 3,893
	4-6月期	19,556	▲ 5,690	▲ 3,235	81,761	84,996	▲ 2,455	28,685	▲ 3,438
	7-9月期	20,519	▲ 6,651	▲ 2,271	84,714	86,985	▲ 4,380	30,612	▲ 3,442
	前期差	963	▲ 961	965	2,953	1,989	▲ 1,925	1,927	▲ 3
2022年	8月	▲ 720	▲ 29,161	▲ 19,702	84,946	104,648	▲ 9,459	29,872	▲ 1,431
	9月	4,698	▲ 23,666	▲ 18,888	85,841	104,729	▲ 4,778	30,042	▲ 1,679
	10月	▲ 4,362	▲ 25,131	▲ 20,742	87,841	108,583	▲ 4,389	23,558	▲ 2,789
	11月	15,094	▲ 18,650	▲ 15,201	87,579	102,780	▲ 3,449	35,472	▲ 1,728
	12月	11,093	▲ 18,430	▲ 15,673	81,163	96,836	▲ 2,757	32,271	▲ 2,748
2023年	1月	2,295	▲ 21,595	▲ 16,804	78,297	95,101	▲ 4,790	27,941	▲ 4,051
	2月	12,155	▲ 14,979	▲ 10,737	80,220	90,957	▲ 4,242	31,530	▲ 4,396
	3月	9,705	▲ 13,653	▲ 9,708	80,104	89,812	▲ 3,944	26,589	▲ 3,231
	4月	18,752	▲ 3,221	▲ 4,456	82,983	87,439	1,235	26,169	▲ 4,196
	5月	17,215	▲ 9,062	▲ 4,929	78,326	83,255	▲ 4,133	29,231	▲ 2,954
	6月	22,701	▲ 4,787	▲ 321	83,974	84,295	▲ 4,466	30,654	▲ 3,165
	7月	26,419	▲ 4,241	▲ 1,146	85,105	86,251	▲ 3,095	34,198	▲ 3,538
	8月	15,030	▲ 10,451	▲ 4,360	81,979	86,340	▲ 6,090	28,440	▲ 2,959
	9月	20,109	▲ 5,261	▲ 1,306	87,058	88,365	▲ 3,954	29,197	▲ 3,828
	10月	26,217	3,274	▲ 2,915	89,214	92,130	6,190	26,140	▲ 3,198
	前期差	6,108	8,535	▲ 1,609	2,156	3,765	10,144	▲ 3,057	630
	前月比	30.4	-	-	2.5	4.3	-	▲ 10.5	-
	前年差	30,579	28,405	17,827	1,373	▲ 16,453	10,579	2,582	▲ 409
前年比	-	-	-	1.6	▲ 15.2	-	11.0	-	

(注) 四半期の数字は、月次の数字と比較しやすいように、月平均で表示している。

(出所) 財務省より筆者作成。

知的財産の大幅な拡大が サービス収支を押し上げ

インバウンド需要やデジタル関連が注目されるサービス収支を確認しておこう。趨勢的な動きをみるため、原数値を3か月移動平均でみたのが図表2である。10月のサービス収支は-1,012億円(前月比+3,071億円)となり、マイナス幅が大幅に縮小した。同収支の内訳をみると、旅行収支は2,543億円(同+87億円)となった。図表2で「輸送・旅行を除くその他のサービス」が-3,034億円(同+3,029億円)となり、サービス収支のマイナス幅縮小に寄与した。この「輸送・旅行以外のサービス収支」の内訳をみたのが図表3である。

① 知的財産は海外子会社からの受取等で+700億~+2,800億円程度で推移していた。10月は単月で+9,250億円(前月比+8,700億円)と突出して大きな規模となり、8~10月の平均では+4,380億円(同+3,269億円)となった。一時的に大きな知的財産収入があったものとみられるが、傾向的なものとなるか見極めが必要となろう。

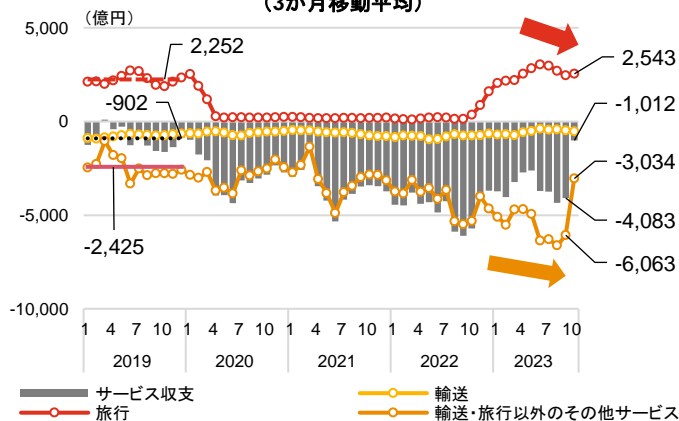
② 保険・年金サービスは、2019年1月の-453億円から、2023年10月の-2,101億円(同-41億円)までほぼ一貫してマイナス幅が拡大している。

③ デジタル関連とされる通信・コンピュータ・情報サービスは、-900億~-1,500億円程度の間のマイナス圏で推移し、10月は-1,394億円(同-103億円)となった。

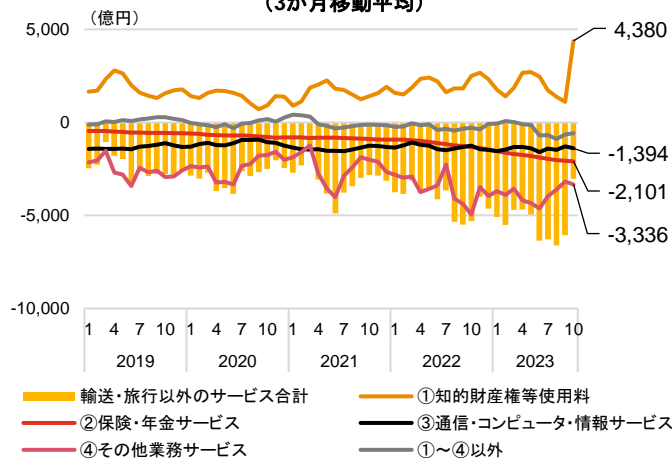
④ その他業務サービスは、-1,200億~-5,000億円程度で推移し、10月は-3,336億円(同+156億円)となった。この内訳を図表4でみると、専門・経営コンサルティングは10月に-1,742億円(同-24億円)となり、マイナス幅拡大傾向が継続している。その一方、研究開発は-1,362億円(+57億円)、技術・貿易関連・その他の業務は-694億円(-6億円)と横ばい圏での動きとなっている。

10月のサービス収支のマイナス幅が大幅に縮小した(図表2)。この縮小に寄与したのは輸送・旅行以外のサービスのうち、知的財産の大幅な拡大であった。現時点ではその内容が不明なため、一時的な要因によるものか、何らかの趨勢的な変化となるのかに注目であろう。旅行収支はプラス幅が拡大したものの、変化幅は小幅なものに留まっている。旅行収支は、2,500億円程度で安定的に推移している。また、図表3の保険・年金サービス、図表4の専門・経営コンサルティングのマイナス幅拡大傾向も重要となろう。

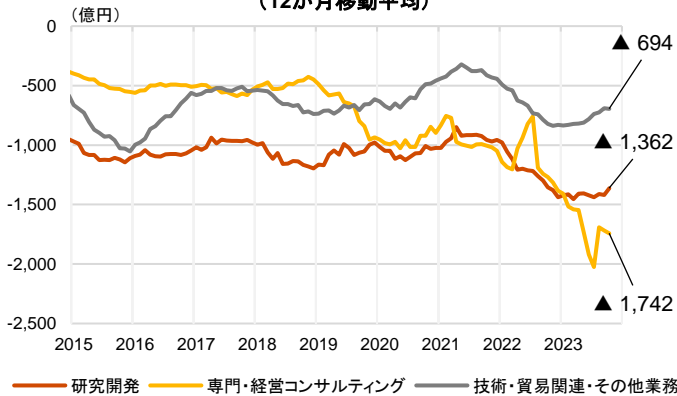
図表2: サービス収支の推移
(3か月移動平均)



図表3: 輸送・旅行以外のサービス収支推移
(3か月移動平均)



図表4: その他業務サービスの内訳
(12か月移動平均)



片岡 剛士
チーフエコノミスト、執行役員
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤
シニアエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

(出所)財務省、日本銀行より筆者作成。

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel: 03-6257-0700